

平成29年度 上峰町立上峰中学校 学校評価

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
心豊かにたくましく生きる生徒の育成 ～自ら考え、適切に判断し行動する 中学校生活を通して～	① 基礎・基本の確実な習得と活用力の伸長 ② 豊かな心と社会性の育成 ③ 基本的な生活習慣の確立と健やかな体力の向上 ④ 組織体制の強化と教職員の資質能力の向上

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 基礎・基本の確実な習得と活用力の伸長

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	1. 校内研究への取組による指導方法の改善 2. 意欲的かつ望ましい学習態度・学習規律の育成 3. 家庭学習・補充学習の充実 4. 読書活動の充実	1. 指導法の工夫・改善を図り、生徒がわかる喜びを実感できる授業を構築する。 2. 習得・活用・探究を図る学習活動や、思考・判断・表現力の育成をめざした学習活動の充実を図る。 3. 学習意欲を喚起し基礎・基本の徹底指導と学び方を習得させる。 4. 読書習慣を身につけてさせ、読書に親しむ態度の育成を図る。	・全職員による公開授業と授業研究会の実施。TT授業等の研究。各種研修会への積極的な参加。学習状況調査等を活用した学習指導の展開。 ・学び合い活動に言語活動を組み込んだ指導法の研究。 ・学習規範の指導徹底。授業のねらいや流れを明確にした授業の確立。 ・年間を通じた朝読書の実施。 ・生徒会図書部との連携による図書館利用の充実。 ・「すくすくテスト」や「学習クラスマッチ」、佐賀大学と連携した長期休業中の補充学習等の推進。	A	・全職員が1回以上の公開授業を行い学び合い活動を核とした指導法の改善に取り組んだ。 ・学習規律を徹底して落ち着いた学習環境を作り、習熟度別やT-Tによる指導により、活用力と基礎基本を大切に取組を行った。 ・生徒会活動とタイアップした朝読書や学習クラスマッチで、学習環境の向上に努めて効果を上げた。	・県学習状況調査、NRT、Q-U検査等の調査結果を十分に分析して、日々の教育に積極的に生かす取組がさらに必要である。 ・家庭学習時間が1時間以内という生徒が5割の学年があるので、学習習慣を身につけさせるための家庭との連携や、課題の工夫に改善の余地がある。
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	1. ICT機器を効果的に活用した授業づくりの推進	1. 電子黒板の操作の習得を図る。 2. ICT機器を活用した授業の進め方について研究を深める。また、研修体制の強化を進める。 3. ICT機器を活用する教材の開発及び環境整備を推進する。	・ICT利活用教育のリーダーを育成し、ICT機器を活用した授業を各教科で研究・実践。 ・ICT利活用教育の研修会を実施する。 ・ICT機器を活用した教材の開発を全教科で推進し、活用できる教材のストックの増加。	B	・全職員が電子黒板と電子教科書の操作に慣れ、ICTを活用した授業を行っている。 ・パソコン室、タブレット型PCの利用、書画カメラ(ぼうけんくん)の活用については、十分な研修の機会をもつことができた。 ・ICT機器を活用した教材の開発についてICT支援員の協力を得て作成し、授業の質を高めた。	・年度当初に本校のICT機器の保有状況や活用方法を全職員で確認し、それぞれの持つノウハウを共有する機会をもつ。 ・ICT機器を活用した教材の開発についてもICT支援員の協力を得て作成し、授業の質を高めた。

② 豊かな心と社会性の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	1. 豊かな心を育む道徳の授業の充実 2. 基本的な生活習慣の定着 3. お互いを尊重しあえる人間関係づくりの推進 4. 生徒会活動の活性化	1. 道徳的価値に基づいた生き方の自覚を促す授業の充実を図り、正しい判断・実践力の育成をめざす。 2. 「あいさつ・無言清掃・時間を守る」を中心として、基本的な生活習慣の定着を図る。 3. コミュニケーション能力や人間関係構築能力を高め、社会適応能力を育成する。 4. 生徒の自主性と創意を生かした生徒会活動を展開する。	・道徳の授業の研鑽、教科指導・体験活動等、全教育領域において、心の教育の充実を図る。 ・日常におけるあいさつの励行、無言清掃と集会における無言入退場。 ・ノーチャイム運動の充実と学年の連携による遅刻をなくす指導の強化。 ・Q-U検査を活用し、ソーシャルスキル教育の計画的な展開。 ・複数担任制による生徒観察・指導の強化充実。 ・日々の教育相談活動や週末アンケート等による生徒の実態把握、人権尊重を大切にした授業や行事の実践。 ・生徒一人一人が活躍できる学校行事や体験活動の充実。 ・高いリーダー性を持った生徒会役員の育成と1、2年生のリーダー育成。	A	・「あいさつ」「無言清掃」「時間を守る」ができるようになってきていると答えた生徒が98.4%となり、昨年より高くなった。 ・複数担任制による日々の観察や週末アンケートにより、生徒同士の人間関係を把握し、早期の指導を行うことができた。 ・遅刻が少なく基本的な生活習慣がつけられている生徒が多い状態である。 ・ノーチャイムや無言清掃の取組を生徒のリーダーシップを生かしながら推進できた。	・生徒の落ち着いた状態に安心をすることになりかねないので、高いアンケートをもって生徒理解に努めたい。 ・道徳の授業については、まだ工夫の余地がある。生徒の心を揺さぶる実践を道徳教育推進教師を中心に進めていく必要がある。
教育活動	●いじめ問題への対応	1. 人権・同和教育の推進を含めたいじめ防止のための教育実践 2. いじめの早期発見・早期対応に向けた取組	1. 道徳、特別活動をはじめとした教育活動において、いじめ防止のための心の教育につとめる。 2. 人権を尊重し、正しい差別のない明るく豊かな社会を築く人間の育成をめざす。 3. いじめの早期発見を徹底するため、生徒理解・指導と教育相談体制のさらなる充実を図る。 4. いじめの早期対応を徹底するための、対応力・指導力と教育相談体制のさらなる充実を図る。	・道徳や特別活動において計画的に「いじめ防止」に関する題材・活動を取り入れる。 ・「週末アンケート」の実施方法や結果の活用方法について絶えず検討・修正を加える。 ・教育相談部を中心に各学年で協力するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を密にする。 ・インターネット上のいじめに対応するために情報モラルの教育を計画的に行い、いじめ防止に努める。	A	・95.8%の生徒が「お互いを大切にしようとする人間関係づくりを行っている」と答え、97.4%の生徒が「いじめを生んではいけない」と答えている。 ・いじめを生まない学級づくりのために、規律づくりと絆づくりに各学年で取り組んだ。 ・インターネットの適切な利用の仕方について外部講師を招いて研修を行い、ネット上の中傷などを防止した。	・普通学級に在籍する生徒にも、特別な支援が必要な生徒が存在する。そのような生徒がいじめの対象にならないように、お互いに認め合うような風土づくりを今後も推進したい。 ・週末アンケートがマンネリ化しないように、担任が常に危機感を持って対応し、報告・連絡・相談を徹底して組織としての防止体制を構築したい。

③ 基本的な生活習慣の確立と健やかな体力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営の展開	1. 学校運営組織力の向上 2. 職員研修の活性化 3. 信頼される教職員としての意識の向上 4. 危機管理体制の強化	1. 組織体制の効率化と機能の強化 2. OJTを中心とした教員の実践的指導力の向上 3. コンプライアンス意識を強化するとともに、服務規律の保持・徹底を図る。 4. 危機管理体制を整備し危機対応能力を高める。	・運営機構と会議の見直し、ミドルリーダーの育成並びに複数担任制による学級経営の充実。 ・校内研究会の充実、研究授業や事例研究会等の実施。 ・サービスに対する意識改革、サービスに関する研修会の実施。 ・危機管理マニュアルの見直しと報告・連絡・相談の徹底、関係諸機関との連携。	A	・職員会議や連絡会など事ある毎に服務規律の保持徹底を促し、月に1度自己チェックを行った。 ・学年主任を中心に、複数担任制の強みを生かす連携体制を作り、ベテラン教師に学ぶ機会を設定できた。	・活用力向上事業に関わって、小中連携など運営組織の見直しを図る必要がある。 ・校内研究のなかでベテラン教師に学ぶ機会を定例化し、OJTを活用する取組を継続したい。
学校運営	○特別支援教育	1. 特別支援教育体制強化 2. 個別の支援の充実と専門機関等との連携強化	1. 特別支援教育について理解を深め、全職員による指導体制の強化を図る。 2. 特別支援学級の生徒だけでなく、普通学級に在籍する特に支援を要する生徒の指導の充実を図る。 3. 特に支援を要する生徒や不登校生への専門機関との連携による指導支援の強化を図る。	・特別支援教育についての研修会への参加と校内研修の充実。 ・個別の支援計画の作成及び効果的な活用、指導法の改善と全職員による協力体制の確立。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員の有効な活用。	A	・夏季休業中に外部講師を招いて、特別支援教育についての職員研修を行った。 ・専門家による巡回相談や小学校との連絡、スクールカウンセラーを交えたケース会議などを複数回もち、個々の生徒への対応について共通理解をはかった。	・不登校生徒についても特別に支援が必要であるという考えで、個別の支援を行うことが大切である。スクールソーシャルワーカーのさらなる効果的な活用を考えていきたい。 ・特別支援学級に関わる職員が個々の生徒の成長について共通理解をはかりたい。
学校運営	○開かれた学校づくり	1. 学校公開と情報の発信 2. 地域と連携した学習の推進	1. 学校の情報を発信し学校の説明責任を果たすとともに家庭や地域の声を学校経営に反映させ、地域と一体となった教育をめざす。 2. キャリアデザインにつながる体験活動や地域の伝統芸能に触れる活動などを通して、地域と連携した教育活動を充実させる。	・学校だより・上中らいろ(学校行事紹介写真)の地域回覧、ホームページ更新、授業参観・オープンスクールやPTA活動活性化のための企画力向上。 ・学校評価の効果的な活用、保護者との日常的な情報交換の機会拡充。 ・地域や保護者の協力による職場体験の実施や地域の伝統芸能を取り入れた総合的な学習の実施。	A	・学校による情報発信に関わって、92.5%の保護者が「子どもの様子を伝えたり家庭との連携を図ったり、努力をしている」と感じている。 ・約96%の保護者が「学校は地域と連携して教育活動を行っている」と認識している。	・学校からのたよりを保護者にきちんと渡している生徒が約75.9%と昨年度より減少した。来年度は、家庭と連絡を取りながら指導をしたい。 ・オープンスクールへの参加者が伸び悩んでいるので、PTAと連携してより効果的な公開について工夫したい。
学校運営	○小中連携	1. 小中の学力面・生徒指導面の連携 2. 中1ギャップや不登校の解消	1. 9年間育てる視点に立ち、小中のつながりを大切に学力向上や生徒指導の充実を図る。 2. 小中の接続をスムーズにし、中1ギャップや不登校の解消に努める。	・計画的な小中連携活動(子どもの交流、教職員の交流、子どもと教職員の交流)の促進。 ・学力向上に向け、年間指導計画や教科の指導内容等を考慮した交流会の実施。	B	・夏休みの体験入学と11月の入学説明会、小学校運動会へのボランティア参加など連携を推進した。 ・小中合同研修会や連携協議会の設定を行い、昨年より教科や生活指導での連携を進めた。 ・相互の授業参観は行うことができたが、出前授業の実践が9カ年で子どもを育てるという意識を高めようとした。	・小中連携には、教師の交流、生徒の交流がともに必要なので、さらに工夫して場を設定したい。 ・校内研究で共通の柱を立てて連携しているが、職員の意識に差があるので、小中連携の利点を共通理解し、小中職員が9カ年で子どもを育てるという意識を高めようとした。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・保護者、地域の方々、学校評議員、学校関係者評価委員から、本校の教育活動について肯定的な意見が多く寄せられた。本校の教育活動について、良くなってきていると概ね良い評価をいただいている。校内研究を軸にした指導方法の工夫改善など、現在取り組んでいることが一定の成果を上げていると自負しつつも、これに安心することなく、確かな学力を目指した指導方法の工夫改善を重ね、豊かな心と望ましい人間関係づくりのために、熱意と使命感を持って教育活動に取り組みたい。
・「B」評価である「ICT利活用教育」については、研修の機会を増やし、タブレットPCと電子黒板を連動させた学び合いの構築に着手したい。また、「小中連携」の項目については、①教師の連携、②児童生徒の連携、③行事での連携、④教科での連携を柱にして、出前授業の実施も含め9カ年で子どもを育てる意識を高め小学校とともに力を注いでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目